

目次

第1章	アシスティブテクノロジーを活用した支援技法の開発	1
1	開発の背景と目的	1
2	用語の定義	2
(1)	高次脳機能障害	2
(2)	アシスティブテクノロジー	3
(3)	I C T	3
3	開発の方法	3
第2章	高次脳機能障害とA T	5
1	文献調査	5
(1)	調査の方法	5
(2)	調査の結果	5
2	ヒアリング調査	10
(1)	障害者のデジタルデバイスの活用について	10
(2)	高次脳機能障害者への支援について	11
(3)	就労支援とA Tの活用について	11
(4)	就労支援におけるA T活用の普及	11
3	その他の情報収集	12
4	プログラム受講者のA T活用状況	12
(1)	知っている機能	13
(2)	使っている機能	15
(3)	意見交換	18
第3章	A T活用事例の紹介	22
事例1	～タッチキーボードを活用した結果、漢字入力ができるようになった事例～	22
事例2	～スマートフォンでスケジュール管理した事例～	24
事例3	～スマートフォンの音声入力をメモに活用した事例～	26
事例4	～地誌障害対策にMapやカメラ機能を用いた事例～	28
事例5	～小脳梗塞による運動失調のためショートカットキーを用いてPCを操作し、処理速度を向上させた事例～	29

事例 6	～片麻痺のためキーボードのキーを同時に押すことが難しい場合の操作～	30
事例 7	～コントラストを調整し、易疲労性の軽減を試みたケース～	31
事例 8	～面接練習でタブレットを使用し、ビデオフィードバックを実施した事例～	32
事例 9	～音声読み上げ機能を使って文章の見直しをした事例～	33
事例 10	～易疲労性対策としてスマートフォンのアラーム機能を活用した事例～	34
第 4 章	A T 活用支援実施に係る工夫、留意事項	35
1	アセスメントの段階	35
(1)	対象者の自己認識	35
(2)	神経心理学的検査の実施	36
(3)	情報収集・行動観察	36
(4)	ケースフォーミュレーションシート(C F シート)	37
2	習得段階	38
(1)	A T の活用を提案する段階	38
(2)	A T を身につける段階	39
3	身につけた補完手段を職場等へ移行する段階	39
(1)	関係者との情報共有	39
(2)	就職・職場復帰後の支援	40
4	その他	40
(1)	グループワークの実施と目的	40
(2)	A T の活用を支援できる人材の育成	42
(3)	A T があれば解決できるわけではない	42
(4)	ユーザーインターフェースの変更に注意	42
第 5 章	まとめ	43